

和歌山県田辺市での津波防災都市づくりに関する意見交換会の実施について

国土交通省国土技術政策総合研究所（国総研）では、「沿岸都市の防災構造化支援技術に関する研究」（平成 24～26 年度）の一環として、防災都市づくりによる津波被災時の防災拠点機能確保のあり方を研究しております。研究においては、和歌山県田辺市及び徳島県美波町をケーススタディ都市として、地元関係機関のご協力を得て調査を進めております。2 月 26 日には、田辺市役所本庁舎内において、田辺市、及び県、消防、地方整備局、災害拠点病院等の地元機関の担当者による、「津波防災都市づくりと防災拠点機能・施設の維持に係る意見交換会」を実施しました。

国総研からは、和歌山県が平成 25 年 3 月に公表した南海トラフ巨大地震による津波浸水想定と、各機関の発災後の対応方針について事前にヒアリングした内容をベースに、南海トラフ巨大地震による津波等の災害の発生後による防災拠点施設の被害様相及び発災後の応急活動に伴う人・モノなどの移動や各防災拠点施設における対応状況の変化等の時系列での展開をシナリオ案として地図上等に整理したものを提示して参加者に確認をいただき、防災拠点機能が発揮されるために対応が必要と考えられる時期毎の課題を提起し、また東日本大震災での教訓や他都市の取組事例等の参考事例を紹介いたしました。意見交換においては、災害時における各防災拠点施設の災害対応・復旧指令機能の代替庁舎等における確保と B C P（事業継続計画）の作成や、S C U（広域搬送拠点臨時医療施設）の運用と患者の搬送ルート、D M A T（災害派遣医療チーム）の受入、拠点病院における傷病者や避難住民への対応、想定される外部支援と活動スペースの確保、外部支接受入に係る航路啓開の時間の想定等についての意見や課題、取組みについて議論が交わされました。

今後、ケーススタディ都市での取り組み結果を参考に、研究成果をとりまとめていく予定です。



写真 1・2 意見交換会の様子



写真 3 市内に立てられた看板



写真 4 紀南病院（災害拠点病院）



写真 5 扇ヶ浜越しに見た田辺市沿岸部